



「ちとせ」が変われば「みらい」が変わる

ちとせみらい通信

愛知県一宮市を行政視察

7月5日に名古屋市で開かれる研修に参加するのに合わせ、前日の4日に一宮市を行政視察で訪れました。わざわざここを訪れたのは、「一宮市民が選ぶ市民活動支援制度について」以前から詳しく知りたいと切望していたからです。私一人のために、ご担当の市民協働課長と交流スペースとなっている一宮市民活動交流センターの課長補佐の2名体制でご対応いただきました。この制度は、個人市民税の1%相当額を18歳以上の人口で割った651円を市民一人当たりの投票金額として、獲得した票数に準じた金額が団体に交付されるというものです。投票権は満年齢18歳以上の市民にあり、最大3団体まで支援したい団体を選ぶことができる(1団体であれば651円、2団体であれば325円ずつ、3団体であれば217円ずつを支給)ほか、団体を選ばずに基金への積み立てを選択することもできます。票を取れば取るほど支援金が多くなる仕組みで、補助率は対象事業経費の2/3となっています。この事業は平成21年度から実施し、現在で10年目を迎えています。申請団体の数は例年70~80団体、市民の投票率も10~12%程度とのこと。現在同様の制度を設けている自治体は全国で5つ。北海道では一時期お隣の恵庭市が実施していたそうです。自治体から交付される補助金等は既得権益化しやすく、事業評価も曖昧になりがちですが、補助金の交付額を市民の投票で選ぶという画期的な取り組みを10年間も継続していることに素直に感嘆しました。視察後は課長さんのご厚意で交流センターが入っている尾張一宮



駅直結のビル内を見学させていただきました。このビルには、1階にスーパーと観光案内書、上階に社会福祉協議会や子育て支援センター、中央図書館などの中核施設が集積しており、老若男女の市民が集える場所となっています。どこも新しく素晴らしい設備でしたが、私が特に目を奪われたのは図書館です。ビルの片側5階から7階に跨っており、特に児童書の所蔵が多いのには驚きました。絵本の読み聞かせスペースには大量の紙芝居なども置いてあり、市民が自由に利用することができます。目にするもの聞くものすべてが新鮮でたいへん充実した視察となりました。

決算特別委員会質疑

(※委員会は一問一答方式)

10月10日の決算特別委員会で質疑を行いましたので、一部を抜粋してご報告いたします。

3-(1)ヒメマス地域特産品ブランド化事業費

Q 私が、予算、決算特別委員会の質疑でヒメマスのこと取り上げるのは、これで4回目である。平成29年度に、ヒメマス地域特産品ブランド化事業費が新設されたのも、私の熱意ととっていただけのかわかりませんが、しつこさが功を奏したということであれば、質疑を続けてきたかいたのかと思う。支笏湖産ヒメマスのプロモーションは、漁協に任せっ切りにするのではなくて、やはり、市民も含めて全市一丸となって取り組まなければいけない課題だというふうに感じるところ。今年度の釣果については、これまで最高だった平成26年度に次ぐ15万5,450尾の当たり年だったという報告があったが、今後、この事業を必ずや成功に導くという意気込みとか展望について、ご所見があれば伺いたい。

A 今般、地域団体商標登録を行った。支笏湖産ヒメマスのブランド化を推進して、他の湖のヒメマスとの差別化と付加価値の向上を図ること、また、商標登録を行うことにより、支笏湖という地域名称を入れられるため、通常の取り組みとあわせて、支笏湖地域の知名度アップ、イメージ向上につながると思っている。6月の漁協の総会において、支笏湖チップというふうに正式にブランド名を確定したので、市は、支笏湖の漁協、支笏湖地域の方々と連携し、知名度の周知、おいしさの周知に取り組んでまいりたい。

6-(1)家庭ごみ有料事業費

Q 先般、市民の方から「スーパーの売り場でごみ袋は中国製という表記がされている」とのお問い合わせをいただいた。燃えるごみ、燃えないごみ、それから、プラスチック包装容器のごみ袋のパッケージを見ても、いずれにも、生産地を示す表記はなかったが、どうしてパッケージには記さないで、売り場のほうに表記をされたのか、その理由を知りたい。

A 指定ごみ袋の作製については、毎年、指名競争入札により業者を決定している。昨年5月30日に入札を行い、受注業者が中国で生産した製品を納品したが、函館税関より、外装に原産地国名が表示されていないことから、消費者が誤解する可能性があるとの指摘をいただき、販売店舗の売り場において原産地の表示をすることとした。

Q 全体経費に占めるごみ袋の作製費の割合が3%弱ということだが、もし、国産品を指定するとした場合、入札金額としてはどの程度上昇して、例えば市民が買う指定ごみ袋の価格にも影響するのか、それは全体経費の中で吸収できる範囲とお考えなのか。

A 平成29年度の入札においては、ごみ袋は全体で11種類あり、このうち10種類のごみ袋、合計約586万枚を作製している。この生産地は全部、国外で、金額につきましては約2,800万円となっている。同様の条件のもとで、国内産で試算すると約4,300万円で、国外産と比較すると約1,500万円の増加、率にすると約1.5倍となるが、ごみ袋の作製費用単価は、全体の約9億円の約3分の1の負担であることから、その費用がそのまま直接影響するものではないと考えている。



(追記)この質疑からわずか半月後に、市が指定ごみ袋の発注を失念しており、一部の店舗で欠品が生じたこと、また急遽追加発注したことにより、本来より410万円も高い支出となったことが報じられました。しかも、記事によれば、市は9月19日の段階で気づき、10月4日には入札を行っていたとのこと。この件は10月30日に開かれた厚生環境常任委員会で報告されましたが、たいへん稚拙なミスでると共に、私のこの質疑の際にその事実に触れなかったのは、議会軽視と云わざるを得ず、たいへん遺憾に思うところです。



市政や議会に関するあなたの疑問やお困りごとを是非北山けいたにお聞かせください。

メール: mail@kitayama-keita.com

ホームページ: <http://kitayama-keita.com>



「北山けいた」は議会議員も公僕であり、市民の御用聞きであるべきと考えています。議員としての取り組みをホームページやブログなどで発信しています。

また、私の考えに賛同して一緒に行動していただける方を広く募集しております。

お問い合わせは上記のメールからお願い致します。

ちとせみらい通信は私の想いを届けるかわら版です。